

SU-UTAI & SHIMAI

2022 SUMMER,

KYOTO KANZE NOHPLAY THEATER

夏の素謡と

仕舞の会

言葉の響きの美しさ――。

素謡 能の台本を謡い語る

仕舞 能の一部を紋付袴姿で舞う

清経 味方 玄

Kiyotsune

班女 河村 晴久

Hanjiyo

卒都婆小町 観世 清和

Sotowakomachi

鶺鴒 飼 浦田 保浩

Ukai

日時

令和4年 7月10日 日

午前11時 開演 (10時30分開場)

会場

京都観世会館

京都市左京区岡崎円勝寺町44

入場料

一般前売 4,500円

一般当日 5,000円

学 生 2,500円

全席
自由席

※通信講座受講生、放送大学、老人大学は一般料金

●チケットのお申込みは、
お電話またはチケット販売サイトにて承ります。

ご予約・お問合せ

京都観世会館

京都市左京区岡崎円勝寺町44

TEL.075-771-6114

<http://www.kyoto-kanze.jp>

チケット
販売サイト



夏の素謡と仕舞の会

令和四年七月十日(日)
午前十一時開演(十時三十分開場)

清経

ツレ松野 浩行
味方 玄

地謡
河村 紀仁
松野 浩行
大江 廣史
吉田 篤史
片山 伸吾
味方 玄
青木 道喜
田茂井 廣道

仕舞

通盛
放下僧 小歌
野宮 玉之段
河村 和晃
分林 道治
片山九郎右衛門
杉浦 豊彦
寺澤 拓海
越賀 隆之
武田 邦弘
橋本 光史

班女

河村 晴久
浦田 保親
ワキツレ 谷 弘之助

地謡
樹下 千慧
河村浩太郎
大江 泰正
谷 弘之助
味方 晴久
河村 晴久
大江 又三郎
浦田 保親

休憩二十分

仕舞

賀茂 嘉宏
山姥 和貴
河村 和貴
梅田 美樹
松井 潔司
吉田 和貴
河村 和貴
河村 紀仁
橋本 雅夫
橋本 晴道

卒都婆小町

(一時半頃)

観世 清和
井上 裕久
ワキツレ 林 宗一郎

地謡
橋本 忠樹
大江 信行
吉浪 壽晃
林 宗一郎
杉浦 豊彦
観世 清和
片山九郎右衛門
井上 裕久

鶺鴒飼

仕舞

弓八幡
駒之段
楊貴妃
融

休憩二十分
樹下 千慧
河村 博重
浦部 好弘
味方 團
地謡
大江 廣史
古橋 正邦
橋本 磯道
分林 道治

浦田 保浩
深野 貴彦
ワキツレ 寺澤 拓海

地謡
河村 和晃
河村 和貴
宮本 茂樹
寺澤 拓海
浦部 幸裕
浦田 保浩
河村 和重
深野 貴彦

附祝言

(終了予定 四時前)

主催 公益社団法人 京都観世会
※時間はおよその目安です。

清経

あらすじ

秋の都。源平の戦が続く中、平清経の妻のもとへ、家来 淡津三郎が、清経の入水の知らせと、形見の黒髪を持ち戻って来ます。知らせを聞き、驚き絶望した妻は、夫の裏切りに恨み言をつらね、一首の歌と共に形見を返します。「見る度に心づくしのかみなればうさにぞ返す本の社に」夢でも逢いたいと涙ながらに眠る妻の夢枕に清経が現れますが、喜びもつかの間、自ら命を絶した夫を責める妻。清経は、宇佐八幡(戦の神)のお告げをうけ、仏神三宝も平家をお見捨てになったかと絶望してひとり入水したと語りまわります。それでも恨めしいと嘆く妻に「奈落地獄もこの世も同じ」と断じ、修羅道に堕ちたが十念(念仏)のおかげで成仏することができたという姿を消します。愛するがゆえの悲劇を抒情的に描いた、世阿弥の名作。

班女

あらすじ

吉田少将は都より東国への途次、野上宿(岐阜)の遊女花子と馴れ親しみ、旅の復路での再会を約束、そのしるしに扇を交換して東へ下りました。以来花子は他の客の座敷へも出る扇を眺めて陶然として居るため、宿から追い出されます。吉田少将は都へ上る途中、再び野上に花子を訪ねますが、もはや行方知れず。そこで道を急ぎ京に帰り、男女の縁を結ぶことで名高い紅の森、下鴨神社に赴きます。一方、花子は班女とあだ名され、狂女となつて扇を抱いてさうらい、神々に少将との再会を祈誓しています。紅の森で少将の従者と出会う「班女の扇」との間に、恋しい人に打ち捨てられたことを秋の扇に例え、中国の故事をひいて恋の切なさを感じます。やがて少将が花子の扇に気付き、めでたく再会となります。世阿弥作。

卒都婆小町

あらすじ

秋、高野山の僧が都へ上る途中、鳥羽の辺りで休んでいると、一人の老婆がやって来て、自分はある百歳、美しかった昔に比べれば老い衰えたと独り言を言っています。そこにある朽ちた卒都婆に腰をかけます。僧が卒都婆は仏体であると告めると、老婆は素直に謝るところか、仏法の奥儀で弁舌やかたに反論。感心した僧が拝礼すると、今度は「極楽の内ならばこそ悪しからめ」とは、卒都婆(何かは苦しい)と、小野小町と明かし、ありし昔を述懐し今の境遇を嘆きます。そのうち、かつて小町に恋慕して九十九夜通って死んだ深草少将の怨霊がのり移り、急に狂乱の態となります。やがて我に返った小町は、後世を願ってまことの悟りの道に入りたいと願います。観阿弥作。

鶺鴒飼

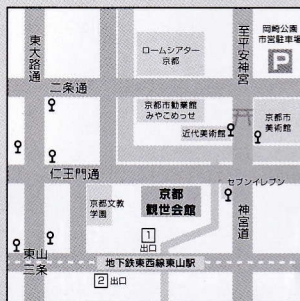
あらすじ

夏の甲斐国(山梨)が舞台。旅の僧が宿を求め川沿いの御堂に泊まります。そこに鶺鴒を休めるためにやって来た鶺鴒使いの老人に、僧は殺生戒を説きますが、二三年前に川下の岩落という地で逢った鶺鴒使いにでなしを受けたことを思い出します。老人は、その鶺鴒使いは禁漁区での密漁のために捕らえられ、ふしつけ(その巻きに)されて死んだことを語り、実は自分がその鶺鴒使いの幽霊であると明かします。僧の串ひの申し出に、幽霊は罪障懺悔に鶺鴒飼の様子を見せて聞かれます。僧が法華経で申しているところへ閻魔大王が現れ、無間地獄に墮とすべき鶺鴒使いが、僧の回向と、かつての一僧の功力によって救われ、極楽へ送ることにしたと告げるのです。榎並左衛門五郎原作、世阿弥改作。

夏の素謡と仕舞の会

日時 令和4年 7月10日(日) 午前11時開演(10時30分開場)
会場 京都観世会館 京都市左京区岡崎円勝寺町44
入場料 一般前売 4,500円 一般当日 5,000円 学生 2,500円

※新型コロナウイルス感染拡大防止の為、館内では必ず「マスク着用」をお願いします。
※体調が優れない場合は、ご来館前に医療機関にご相談願います。
※上演中の写真撮影・録音・録画はお断りします。
※携帯電話の着信音・時計のアラーム音が鳴らないよう、あらかじめ電源をお切りください。
※都合により出演者に変更がある場合がございますので、あらかじめご了承ください。
※公演中止の場合を除き、入場券払戻はできません。
※お車の方は、会館東隣りの駐車場、または岡崎公園市営駐車場をご利用ください。



【交通アクセス】

JR京都駅から

●地下鉄烏丸線「国際会館ゆき」乗車「烏丸御池駅」にて地下鉄東西線「六地藏ゆき」「大津ゆき」に乗り換え、「東山駅」下車、①番出口より徒歩約5分

●京都駅前バスのりばD1よりバス100系統、A1より5系統「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車(乗車時間約30分)

四条河原町から

●バスのりばGよりバス46系統、Eより31・201・203系統「東山仁王門」下車(乗車時間約15分)

京阪三条駅から

●バス5系統「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車
●地下鉄東西線に乗り換え、「東山駅」下車